

悲願達成

大牟田高等学校柔道部

全国高等学校柔道選手権大会優勝



国内外で活躍する選手をたくさん輩出しながらも、柔道の三大会で優勝経験がなかった大牟田高校柔道部。今大会、悲願達成というプレッシャーと戦いながら、いかにして日本一の栄光を掴んだのでしょうか。

第44回全国高等学校柔道選手権大会が3月20日・21日に日本武道館で開催され、男子団体は大牟田高校が熱戦を制し、悲願の初優勝を果たしました。

序盤を順調に勝ち進んだ大牟田高校は、準々決勝で優勝候補の埼玉栄高校と対戦するヤマ場を迎えました。先鋒戦で森山選手が勝利し、順調なスタートを切りますが、次鋒戦の相手は、100キロ級のインターハイチャンピオンの新井選手で、大牟田高校は73キロ級の竹市選手が挑みます。竹市選手は体重差を感じさせない攻めの柔道で見事に勝利し、杉野監督は「あの勝利で優勝がみえた」と竹市選手をたたえました。

準決勝の相手は木更津総合高校で、大牟田高校は勢いに乗る竹市選手を先鋒で起用します。この策が見事にはまり、竹市選手は一本勝ちを収め、一気に波に乗ります。しかし、優勝候補の

ひとつである木更津高校も意地をみせ、お互い一步も引かない戦いが続き、その後は全て引き分けとなり、先鋒をとった大牟田高校が決勝へ進みました。

決勝戦は、それまで無失点で勝ち上がったきた東海大相模との対戦となり、さらに厳しい戦いとなりました。先鋒を一本で落とした大牟田高校は、次鋒で森山選手が「技あり」で勝利し、1対1と追い付きます。しかし、中堅、副将戦が引き分けとなり、勝負の行方は大将戦へと持ち越されます。大将戦は唯一の1年生（現2年生）の三木選手。決勝戦のオーダーも監督と選手で話し合い、身体能力の高さを信じて三木選手を大将としていました。ここまで内容で負





主将：熊谷諒也選手 3年

個人の成績には満足していませんが、優勝できて本当にうれしいです。チームの雰囲気がよく、試合ごとに課題を見つけ、次に生かすことができたことが優勝につながったと思います。目標は3冠達成。金鷲旗、インターハイも“日本一”を目指します。



73キロ級3位：竹市裕亮選手 3年

個人戦で3位という悔しい思いをしたので、団体戦こそはという気持ちで臨みました。3試合とも自分より大きい相手でしたが、ひるまず戦いました。決勝で引き分けたのは残念でしたが、埼玉栄戦で100キロ級のインターハイチャンピオンに勝てたのは自信につながりました。



大会最優秀選手：三木望夢選手 2年

決勝戦の前に大将を任されることが決まり、1-1のまま試合を迎え、引き分けだと優勝できない状況だったので、死に物狂いで戦いました。技ありをとった“大外刈り”も無我夢中だったと思います。監督や先輩などたくさんの人が喜んでくれてうれしかったです。



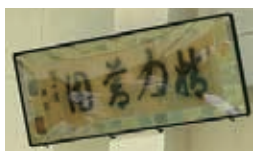
女子無差別級準優勝：矢野真鈴選手 3年

個人戦は、ほぼ一本勝ちで決勝戦に臨めたので、優勝を狙っていました。でも相手も強く、準優勝に終わり悔しい気持ちでいっぱいです。団体戦も自分が引き分けに終わり、チーム全体が波に乗れませんでした。残りの試合で雪辱を果たしたいです。

金鷲旗、 インターハイ… 目指すは三冠。



「最後まであきらめずに戦え」「支えてくれる人への感謝の気持ちを忘れるな」。この基本を守り、柔道が好きであれば誰でも受け入れ、同じ道場で練習していることが大牟田高校柔道部の特徴です。そのため、白帯の子もいれば中学生もいます。「さまざまな子がいるからこそ、気付きや刺激などがあり、お互いプラスになっています」と杉野監督は話します。ここにも同校柔道部の強さの秘訣があるように思います。



道場にある柔道の父・嘉納治五郎の書

けていた大牟田高校は、引き分けでは負けと同じの状況下。監督と先輩たちから背中を押してもらい畳に上がった三木選手は「絶対に獲る」という覚悟で積極的に前に出て仕掛けます。そして試合中盤に「無我夢中で、とっさに出た」という大外刈りで「技あり」を奪い、値千金の勝利を収め、ついに悲願の初優勝を掴みました。

「ここまで長い道のりでした。これもさまざまな支援があつたことで、感謝の気持ちしかありません。優勝してから多くの方に「ありがとう」と言われ、少し恩返しができたかなと思います。そんな中、選手たちもプレッシャーがあつたと思います。が、本当によく頑張ってくれました」と杉野監督は選手たちをたたえました。

挑戦者の気持ちで残りの大会を

杉野健次郎監督

もう一步のところで、何度も優勝を逃していただけに、悲願の優勝でした。選手たちにもその気持ちが伝わり「どうしたら勝てるか」を一緒に考えてきました。試合のオーダーも選手たちの意見を反映させたもので、その中で、ベストを尽くしてくれました。それが最高の結果を生んだのだと思います。なかでも、埼玉栄戦での竹市の勝利は大きかったですね。あの勝利で今大会は優勝できると確信しました。

残りの2大会、相手からのマークが強くなるので、挑戦者の気持ちでがんばります。

